

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第一部 労働者状態

VI 農家の状態と農民の生活

1 農家と農家人口

3 農業従事者と兼業従事者

農業就業人口

第59表は一六歳以上の農業就業人口(自家農業従事者のうち自家農業だけに従事した者と、農業その他の仕事の両方に従事した者のうち農業が主である者)の推移を示したものである。一九七九年一月一日現在の農業就業人口は、前年に比べ三〇万人(四・三%)減少し六七五万人に低下した。これを男女別にみると、男子が四・八%減じて二五五万人に、女子は三・九%減じて四二一万人となった。農業就業人口に占める男女比は、男子三八%、女子六二%でこの数年同じウェイトをたもち、いぜんとして女子が多い。農業労働力の劣弱化傾向は女子化傾向と老齢化というかたちで進行している。ちなみに女子と六〇歳以上の男子の総農業就業人口に占める割合は七八%であった。

なお総理府統計局「労働力調査」による一九七八年一年間の一五歳以上の産業別就業者総数は五四〇八万人で、そのうち農業就業者数は一〇・五%の五六九万人であった(昭和五五年版ポケット「農林水産統計」)。

基幹的農業従事者

農業就業人口のうち日常主として自家農業に従事した基幹的農業従事者を男女別・年齢別にみたのが第60表である。七九年一月の基幹的農業従事者は前年に比べ五%減少し四二九万人となった。

これを男女別にみると男子の減少率が六%で女子の五%を上回り、総数に占める割合は男子四六%、女子五四%になった。農業就業人口の構成格差ほどいちじるしいものではないが基幹的農業従事者にあっても女子のウェイトはひきつづき高い。年齢別には男子、女子ともに二九歳以下層の農業従事者で一二%前後の減少を示し、総数に占める割合は前年をさらに下回り七・三%に低下した。このウェイトを高めているのは六〇歳以上層で前年比三%程度の減にとどまり、その割合も二四%と農業労働の老齢化を強めた。三〇～五九歳層は前年に比べ五%強減じたが構成比は六九%でいぜん中心的位置を占めている。しかしその内容をみると女子の比重が大きくこの年齢層の六一%を占めている。とくに女子の七七%が三〇～五九歳層で占められているのが特徴的である。男子のそれは五九%にとどまっている。

総体として基幹的農業従事者にあっても農業就業人口と同じく女性化と老齢化の傾向はつづいている。七九年一月現在の女子と六〇歳以上の男子の基幹的農業従事者は二九七万人でその割合は六九%を占めた。なおこの数年この総数に占める割合に変化はない。

一六歳以上の農家世帯員のうち雇われ兼業に年間三〇日以上従事するか、自家農業以外の自営業で年間五万円以上の収入のあった兼業従事者は七九年一月一日現在前年に比べ一%増加して八四六万人となった。この兼業従事者の特徴を第61・62表でみるとつぎのとおりである。

(1)「雇われ兼業」・「自営兼業」従事者ともに前年に比べ微増しているが、前年と同じくその割合は前者が八二%(六九五万人)、後者が一八%(一五一万人)である。これを男女別にみると「雇われ兼業」のうち男子が六四%を占め女子は三六%であった。他方、「自営兼業」の割合では男子と女子の格差は縮小し男子五八・五%、女子四一・五%であった。

(2)「雇われ兼業」従事者を種類別にみると「主に恒常的勤務」は前年に比べ一%の増で、その割合も前年と同じ七〇%(四八七万人)にとどまった。この形態にかんしては男女ともに同じで大きな変化はみられない。

(3)「主に出稼ぎ」従事者のみが前年比一一%の減少を示し一六万人に低下した。これを男女別にみると男子一一%減、女子七%減であるが、男子の割合が九一%と圧倒的な割合を占めているため、男子の動向に左右されていることもこれまでと同じである。

(4)「主に日雇・臨時雇」従事者は前年に比べ二%の増で一九二万人となり、そのうち男子五八%、女子四二%であった。雇われ兼業従事者に占める割合は二八%と比較的高いが、これを男女別にみると女子が三二%で男子のそれより高い割合を占めている。女子のこの傾向は変わらず、しかもこの数年わずかではあるがウェイトを徐々に高めていることがわかる。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
